

歯科総括副病院長の選任について

高木律男教授の任期満了に伴い、小林正治教授が歯科総括副病院長に選考されました（平成28年

4月1日付）。また高木律男教授が副病院長（医科歯科連携担当）に選出されました。

教授人事について

口腔解剖学分野担当教授として、平成28年1月1日付で大峽淳先生（新潟大学医歯学系准教授）が就任されました。また、う蝕学分野担当教授と

して、野村由一郎先生（大阪大学大学院歯学研究科准教授）が選考されました（平成28年4月1日発令予定）。

平成28年度概算要求事項の内示について

平成28年度政府予算案が決定されたことにより、文部科学省より歯学部に関係する項目として以下の内示がありました。

◇基幹運営費交付金（機能強化促進分）

- 戦略① 新潟大学型質保証による学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革〈人材養成システム改革〉
 - ◇（プロジェクト）現代社会ニーズに応える実践的口腔医療人育成プログラム等による質保証システム構築－質保証による国内標準化教育モデルの策定・実践－
- 戦略② 「環東アジア」地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築〈社会貢献システム確立〉

◇（プロジェクト）国際・地域ネットワーク構築による現代社会的課題の対応－グローバル環境下で育む地域・国際医療福祉貢献－

- 戦略③ 脳・神経科学分野はじめ連携・融合研究促進のためのネットワーク型研究体制転換等によるイノベーション・システムの確立〈イノベーション創出環境醸成〉
 - ◇（プロジェクト）若手研究者が集うレジリエンスな口腔保健教育研究拠点の形成－ネットワーク型教員組織の構築と実質化による総合的な機能強化－
- 大学間連携共同教育推進事業
 - ◇ 連携機能を活用した歯学教育高度化プログラム

小澤英浩名誉教授の叙勲について

小澤英浩名誉教授は平成27年春の叙勲にて、これまでの教育・研究・管理運営の功績に対し、瑞宝中綬章が授与されました。叙勲の経緯等に関し

ては、51頁に北海道大学大学院歯学研究科網塚憲生教授（前新潟大学超域機構教授）の寄稿文を掲載しました。

前川助教（高度口腔機能教育研究センター所属）が学長賞を受賞

学長賞（若手教員研究奨励）は、顕著な研究成果を上げ、「国内外の評価の高い学術誌に掲載された論文」や「受賞論文」等を投稿した若手研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な若手研究者の育成及び研究意欲の向上を図ることを目的として、平成26年度に制定されました（http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/271117_02.html）。

研究内容は新潟日報で報道されるとともに、新潟大学ホームページでも平成27年度研究トピックスとして紹介されました（<http://www.niigata-u>

[ac.jp/research/study/271019.pdf](http://www.niigata-u.ac.jp/research/study/271019.pdf)）。

【受賞論文】

Porphyromonas gingivalis Manipulates Complement and TLR Signaling to Uncouple Bacterial Clearance from Inflammation and Promote Dysbiosis.

Genetic and intervention studies implicating complement C3 as a major target for the treatment of periodontitis.

臨床基礎技能実習室（旧補綴・小児歯科実習室）の設備更新について

歯学部校舎大型改修工事により、臨床系基礎実習室はE、E'棟からB棟に移転・整備を行ってきましたが、この度、臨床基礎技能実習室の実習

機一式を更新しました。この実習機はアイランド型で最新式の装備を備えています。平成28年度新学期からの供用開始を予定しています。

ハプティック技術を用いた トレーニングシステムの導入

歯学教育では卒業生の臨床能力の担保が重要な政策課題となり、診療参加型臨床実習の確固たる実践やシミュレーターを活用した補完教育の重要性が叫ばれています。このような中、歯学部ではシミュレーションを活用した効率的な実習を検討するために、平成26年度に英国において、ハプティックを用いたトレーニングシステムの調査研究を行ってきました。この度、大型改修工事が完了したので、E棟1階スペースに学生自習室の整

備とともに、MOOG Dental Trainerを導入することとし、この度、納入が完了しました。臨床系実習室管理委員会、臨床実習委員会等での本装置を用いた教育カリキュラムの開発が望まれるとともに、早期臨床実習やオープンキャンパス等での活用が期待されます。

MOOG Dental Trainerの詳細については、<http://www.nihonbinary.co.jp/Products/Medical/MedicalTraining/Dental/dentaltrainer.htm>

総合研究棟（歯学系：歯学部校舎） 改修工事（第3期）の竣工について

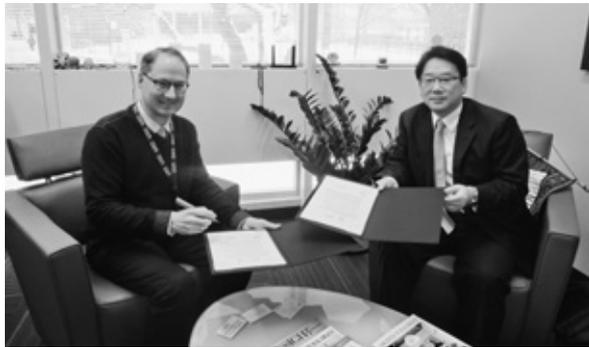
大型改修工事の第3期工事として進められていた歯学部校舎E、E'棟の改修工事が平成27年9月に竣工しました。E棟1、2階には講義室、PBL室（12室）、基礎実習室、マルチディスカッションルーム、学生ロッカー室などの学生ゾーン、3～5階には教員研究室、コモンラボ、アラ

イアンストラボなどの研究ゾーンが配置されるとともに、共同研究に資する全学共有スペースが整備されました。大型の共同研究スペースが整備されたことで、分野間の壁を越えた若手研究者を中心とする学際的研究の進展が期待されます。

イリノイ大学歯学部シカゴ校との 部局間交流協定締結について

かねてから交渉中であった米国・イリノイ大学歯学部シカゴ校との部局間交流協定締結の手続きが完了し、前田歯学部長、魚島副学部長（国際交流担当）が平成28年2月15日にイリノイ大学歯学部シカゴ校を訪問し、部局間交流協定を締結しました。この部局間交流協定には学生交流に関する

事項も含んでおり、これで、欧米との学生交流協定を締結した大学は米国・ペンシルバニア大学（フィラデルフィア）、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学（バンクーバー）、スウェーデン・マルメ大学（マルメ）となり、イリノイ大学歯学部シカゴ校で4校目となりました。



協定書の交換



締結後の記念撮影

国際シンポジウムの開催

平成28年1月9日～11日の3日間、インドネシアのロンボク島において、国際シンポジウム「International Collaborative Symposium on Development of Human Resources in Practical Oral Health and Treatment」をインドネシア大学歯学部との協力の下、新潟大学歯学部主催で開催しました。参加者はインドネシア、タイ、ベトナム、台湾、日本の5カ国・地域から100名余りに上りました。

人材育成（現代社会に対応する実践的口腔医療人育成プログラム）がメインテーマであった今回のシンポジウムでは、新潟大学歯学部とアジアの交流協定締結校の間で実施されてきた学部学生、大学院学生、教員の人材交流について、インドネシア大学、ガジャマダ大学、チェンマイ大学、陽

明大学の代表者によりこれまでの実績発表があり、引き続き行われた学部長会議では、新潟大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、コンケン大学、チェンマイ大学、ホーチミン大学、陽明大学、マハサラスワティ大学（オブザーバー）の8大学の歯学部長が参加し、次なるシフトアッププログラムを探索する活発な議論が交わされました。

歯周病および組織再生に関するリサーチアップデートシンポジウムはそれぞれ山崎教授と泉教授が統括して行われ、アジア各大学の新進気鋭の研究者が本学との共同研究の足がかりを得るべく活発な議論を展開しました。

また、う蝕撲滅社会を目指す口腔保健計画立案のためのシンポジウムでは、インドネシア厚生省の口腔保健担当者が参加し、効果的で実効性ある



集合写真



学部長会議

保健戦略のたて方について日本とタイの事例紹介や提言に対して多くの質問が出されました。

新潟大学歯学部が海外で主催する国際シンポジウムはこれで5回目となり、本学からの歯学リサーチアップデート講演は毎回、好評を博してきました。

今回は、小野（高）教授、大峽教授、加来准教授が基調講演を行い、いずれも最先端研究でレベ

ルの高い内容でした。

一般演題数は回を追うごとに増加しており、今回は43題（口演発表32題、ポスター発表11題）を数えるに至り、本学の大学院生と教員15名は、全員が英語による口演発表を行い、また、アジアの若手研究者の発表を含めて研究の質もプレゼンテーション能力も格段に高くなってきました。



講演する山崎教授



講演する泉教授



講演する小野教授、大峽教授、加来准教授

ミャンマー・ヤンゴン大学歯学部への医療チーム派遣

新潟大学歯学部はミャンマー・ヤンゴン歯科大学と姉妹校協定を締結していますが、Thein Kyu前学長、Showe Toe学長より、ミャンマーで患者の多い口唇口蓋裂患者に対する医療支援が

要望されていました。昨年度より、顎顔面口腔外科学分野の高木律男教授と歯科麻酔学分野の瀬尾憲司教授による医療チームがミャンマーでの医療支援活動を開始しました。今年度は歯学部長が同

行し、12月20日から1週間ヤンゴンに滞在し、12例の手術を実施してきました。36頁に顎顔面口腔外科学分野の児玉講師によるレポートを掲載しています。

ミャンマーでは医薬品等が不足しており、いろいろな分野からの支援を必要としていますので、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

学生との懇談会の開催について

平成28年1月14日の17:00から歯学部小会議室で、学部長、学務委員長及び関係事務職員と歯学部学生との懇談会が開催されました。学部長からの教育研究設備機器の導入・更新、歯学科新カリキュラム、歯学部自習室の機器管理について説明があった後、学生からの要望などについて意見交換が行われました。

学生からの要望事項として、学部教育、国家試験、校舎・教室、キャンパス内施設等、多岐にわたりました。要望が強かつ緊急性の高い事項に関しては学部として早急に対応することとし、また学生からの要望に応えるためにクラスでの意思統一を図って欲しい旨の発言がなされました。

留学生交流支援制度（短期受け入れプログラム及び短期派遣プログラム）の採択について

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が公募していた留学生交流支援制度の採択結果が通知されました。この事業はこれまでショートステイ・ショートビジット（SSSV）事業として展開されてきましたが、一昨年度より、新たに留学生交流支援制度として発足したものです。歯学部から短期派遣事業（短期研修・研究型）として「3大学歯学部協働による国際歯科医療人育成プログラム」

「歯学部学生の世界展開力涵養支援によるグローバル人材養成プログラム」の2件が採択されました。

なお、本事業による奨学金受給には各種制限が設けられており、特に成績不良の学生には奨学金を支給できないこととなりましたので、短期留学希望者は成績向上に努めるようお願い致します。

歯学部諮問委員会の開催について

新潟大学歯学部の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項、教育研究活動等の状況について本学部が行う評価に関

する重要事項、及びその他本学部の運営に関する重要事項について、学外の有識者の方々から御審議いただき、併せて御助言等をいただくことを目

的に平成28年2月8日（月）15時から歯学部大会議室において、歯学部諮問会議を開催いたしました。

歯学部諮問会議委員として、参加予定であった岡田匠新潟市歯科医師会会長、宮崎則男新潟県介護福祉士会会長が所用のためご欠席となりましたが、石上和男新潟医療福祉大学教授、北窓隆子新潟県副知事、野沢慎吾セコム上信越株式会社代表取締役会長、松川公敏新潟県歯科医師会副会長、渡邊豊新潟県社会福祉協議会企画広報課長からご出席いただきました。

また、歯学部からは前田学部長、宮崎副学部長、魚島副学部長、小野副学部長、寺尾副学部長、葭原口腔生命福祉学科長、藤井教授が出席しました。

審議事項「本学における教育研究活動等の状況について」に先立ち、前田学部長から「歯学部のこれまでの取組について」と題して、国立大学を取り巻く動き、歯学部機能強化への対応、財政面での基盤的経費から競争的資金へ必要性について

説明を行いました。続く審議事項において、諮問委員から第2期中期目標に対して満足できる成果があったとの講評をいただくとともに、財政状況が厳しいなかでの攻めの方策について、高度専門職業人のさらなる養成について、新たな研究組織による研究の高度化、口腔生命福祉学科の特色である歯科衛生士、社会福祉士のダブルライセンスの更なるアピール等について貴重なご意見をいただき、引き続き歯学部のさらなる機能強化に資する運営を行っていくことを確認しました。

